

今年度は全国各地の小学校の現場でJTEとして活躍されているJ-SHINE小学校英語上級指導者の皆様の具体的な活動報告をお届けします。
今月は千葉県船橋市のJTEとして長年活動を続けられている櫻井さんからの実践報告です。



櫻井久美子 さん

中・高英語科教員免許有。J-SHINE小学校英語上級指導者。
千葉県船橋市内の小学校でJTE勤務歴7年。

J-SHINE 通信

2014年5月号

■ J-SHINE資格及び上級指導者資格取得のきっかけ

英語が好きという理由だけで大学まで英語を勉強し、英語教員免許を取得。しかし、大学時代の留学で学生たちが短期間で見事に外国語を操れるようになる姿、教育の方法を目の当たりにし、10年近く英語を勉強しているのに満足な会話もできない自分にショックを受けると同時に、日本の英語教育に疑問を感じた。この体験から、「私がやりたい英語教育は、中・高の教員になってもできない」と思い、一般企業に就職。その後、娘が幼稚園の頃、近所の子供たちを集め、自宅で英語教室をスタート。娘が小学校に入学する頃には、小学校で英語が始まるというニュースを耳にし、将来地域の小学校で英語教育に関われるチャンスがあるかもしれないと思い、J-SHINEの資格を取得。特区となった船橋市では市内の小・中学校全校にJTEを配置することになり、2007年に広報誌に募集が出たため、応募。

上級指導者資格については、更新時に小学校での経験が十分に規程を満たしていたため取得。毎年、2校を隔週で担当している。

■ 現在の活動状況

JTEの当初の役割は、担任の先生とALTが二人でTT(team teaching)できるようにするためのお手本的な立場であり、担任役として前に出て、ALTとのTT(team teaching)をやってみせるというようなことから始まりました。そして、徐々に担任の先生が前に出るように促し、担任主導の形に持っていきました。

現在の主な仕事内容としては、レッスンプランを作成し、時間があれば担任の先生とレッスン内容の打ち合わせを行います。ALTがまったく未経験者の場合には、ALTの指導も行います。教材は基本的に全て手作りのため、必要なら教材も作成します。

年を経るごとに先生方の英語教育への理解も深まり、積極的に前に出たり、授業参観で英語を取り上げる先生も現れています。遠慮がちな先生もいますが、とにかくJTEは出しゃばらず「縁の下の力持ち」「黒子」に徹することを心がけ、子どもたちを主役にして、先生も授業に巻き込んでいくような声掛けをする、自信の無い子どもの横に寄り添いサポートする、という形で授業に関わります。

船橋市では2年前からJTEがメインとなって直接指導する「フォニックス」が5、6年生の授業の中で導入されました。現在1校においてJTEは隔週で配置されており、JTEが来校する週は45分

授業のうちの10~15分を使ってアルファベット、フォニックスたいそう、フォニックスジングル、及びフォニックスのアクティビティなどを指導しています。

市が主催する研修の中で、JTEは民間のmpi松香フォニックスのフォニックス研修を受けた経緯もあり、またALTの国籍によってはフォニックス自体を知らない人がいたり、適切な指導が期待できない場合もあり、JTEが直接指導することになりました。

学校現場は、とにかく担任の先生が多忙であるという印象です。そして、小学校の先生は英語指導を前提とした教育課程で学ばれていないので、まだ苦手意識を持った先生がいることも事実です。7年前は、この多忙や苦手を理由に、英語教育に否定的な声も耳にしました。しかし、7年経った今、多忙ぶりは変わらないものの、英語教育に対する理解が深まり、ほとんどの先生が、協力的、積極的に授業に関わってくださるようになったと感じます。そして、何より先生ご自身が授業を楽しまれるようになり、それが子どもたちにも良い影響を及ぼしています。

今年は、私が初めて6年間通して指導に関わってきた子どもたちが卒業しましたが、7年前に出会った子どもたちと比べて、明らかに英語に対する気持ちが違うと感じています。1年生から英語に慣れ親しんできたことにより、ある程度英語の耳ができていますと感じます。そして、本当に英語を楽しんでいる様子です。もちろん、英語が嫌い、苦手と思っている子どもはいますが、ほぼ全員が間違えを恐れず、人前で活発に発言、発表できるようになっていると感じます。7年前には必ずいた、自信がない、恥ずかしいなどの理由で、何も言えない、蚊の鳴くような声しか出ない、そんな子どもが今はほとんどいないのです。英語教育は英語以外の人間性も育てているのではないのでしょうか。授業を先生も子どもも楽しんでくれた時、また、これまでの先生、子どもたちの様子や変化を見ると、やりがいを感じます。

■ 課題・メッセージ

自分自身、日々勉強は必要だと思っていますが、とにかく現場の経験を多く積むことが一番だと感じます。その中で問題点を見つけ、解決策を探る、この繰り返しで、よりよい授業を作り出していくことができると実感しています。

これからも、子どもたちの笑顔のために、努力していきたいと思っています。